

# 講義 F 事例提示その後

～中高年ひきこもりと地域支援～

---



鳥取県立精神保健福祉センター

令和7年11月17日

① Xさん  
40代後半男性

事例



## 事例提示①

Xさん（40代後半男性）－ 1 / 3

両親と同居。幼少期より人になじめないタイプだった。小中学校では登校渋りを認め、高校に行きたくなかったが、周囲に促され全日制高校に進学。しかし、勉強が難しく人付き合いも苦手で不登校となり、定時制高校に編入し卒業した。

卒業後、ホームセンターに就職するも1年で退職。以降、何度か就職するが、いずれも人間関係が上手くいかず、短期間で退職を繰り返す。

## 事例提示①

Xさん（40代後半男性）－2／3

コンビニでは、自分のやり方で丁寧に仕事をし、トイレ掃除、陳列も徹底的にきれいに行っているのに、何故叱られるのか分からないという。状況に応じた配慮ができず、やめることになった。

40歳頃には、ほとんど外出もせず、ひきこもりの状態が続いている。両親は、本人の考えを変えてやらないといけないという思いが強く、特に父は、日常生活で指示的な言動を繰り返している。

## 事例提示①

Xさん（40代後半男性）－3／3

2階の自室で過ごすことが多く、食事  
も自分の部屋に持ち込んで食べる。昼夜  
逆転の生活で、入浴もたまにしかしない。

家族との会話も、穏やかに話すことは  
なく、学校やコンビニで叱られたことを  
思い出して不安やイライラを強く訴える。  
気に入らないことがあると感情的になり、  
大声を出し物を投げる。母がなだめよう  
とすると、余計に感情的になり何をして  
も治まらない。両親の相談来所となる。

# 事例提示①（Xさん）について

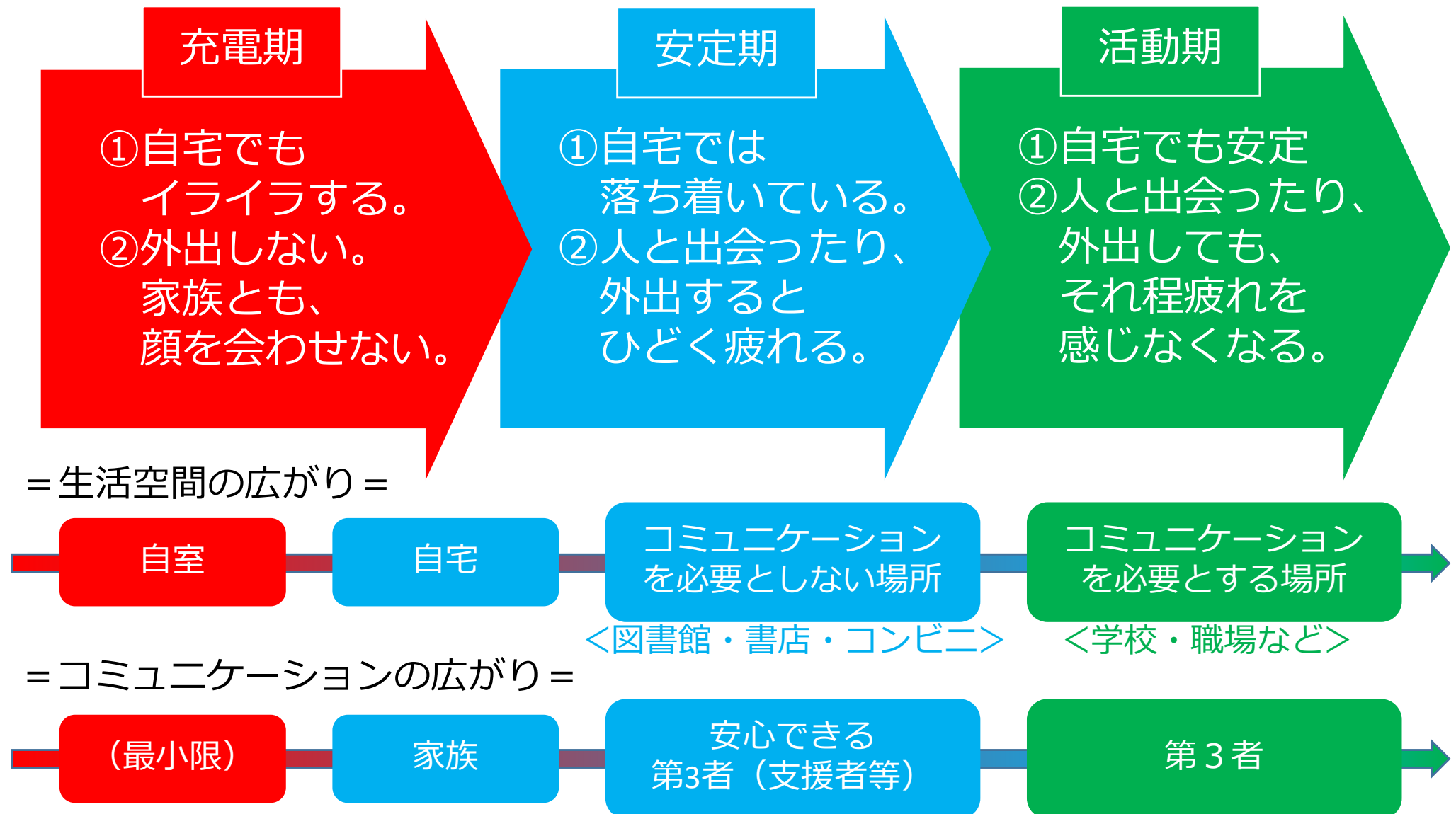
- ・ 本人は、ひきこもり状態にある。
- ・ ほとんど外出せず、家族との会話も少ない。
- ・ 日常生活でも攻撃的な言動が目立つ。
- ・ 父は、何とかしようと指示的な言動が目立つ。
- ・ しかし、本人とは、十分な会話が出来ない。

皆さまなら、どのように考え、  
家族に対して、  
どのように支援しますか。  
正解はありません。

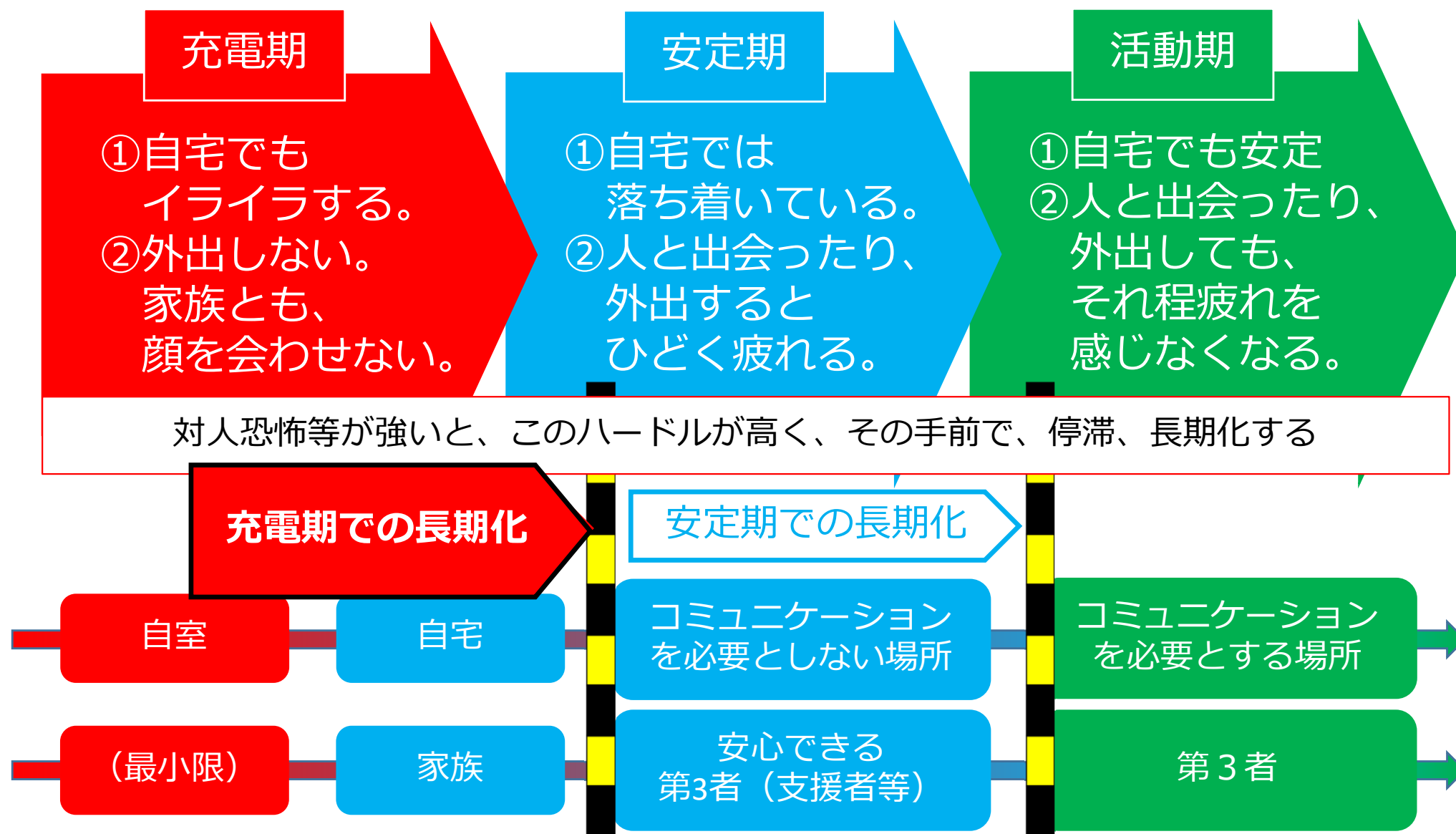
（中間アンケートにご記載ください。

応用編の参考にします。記載は任意です）

# ひきこもりの回復過程



# ひきこもりの回復過程（長期化）



# 充電期の期間・長期化

**充電期の期間（エネルギーの回復）は、  
安定した環境の中では、  
概ね2・3か月～2・3年で改善します。**

一方で、

家庭内が常に緊張状態にある。

（安心・安全が保証されない、理解されないなど）

障害特性や精神症状が厳しい。

精神的ダメージが厳しい。

場合などは、

充電期が長期化することがあります。

# 事例提示①

## Xさん－その後 1 / 3

本人の言動は、過去の出来事を思い出しての内容が中心である。明確な幻覚や妄想は認めず統合失調症などの精神疾患は否定的であり、積極的な精神科医療機関への受診勧奨の必要性はない。状態としては、自閉スペクトラム症がもとにあり、過去の就労時などにおける多くの叱責などが、強い精神的ダメージ、二次障害となって、攻撃的な言動のもとになっていると考えられる。

# 事例提示①

## Xさん－その後 2 / 3

当面、両親の面接相談とする。本人の言動に対して、両親は、本人の考えを変えてやらないといけないという思いが強く、無意識にも指示的な言動をしており、それに対して本人が、より防衛的、攻撃的になっている。両親には、本人の言動に対して受容的に聞くことを勧める。半年ほど経過し、本人の攻撃的な言動はほとんど収まっているが、まだまだ今後の展望は不明瞭な状況にある。

# 事例提示①

## Xさん－その後 3 / 3

両親の継続面接を開始して1年後、父が1か月入院することがあり、そのことで、母が自宅を不在したり、母も疲れ気味で、家の中の用事を頼んだが、本人は協力的だった。父が退院後は、以前のように家事は両親がしていたが、面接時、母が本人に声かけたところ、本人も一緒に行くと言って来所。本人は落ち着いており、数回の面接後、福祉サービスの利用を始めている。

事例 ② Yさん  
50代前半男性

## Yさん（50代前半男性）－1／6

Yさんは、もともとおとなしい性格で、中学校入学時は学校になじめずに一時期不登校になりましたが、両親の協力（学校への送迎など）や学校側の配慮により、何とか再登校し、卒業しました。

高校、大学は特に問題なく卒業。県外の大学に通っていましたが、ほとんど学校とアパートを往復する生活を送っていました。大学卒業後、地元の企業に就職しましたが、数か月で退職しました。

## Yさん（50代前半男性） – 2 / 6

Yさんは、仕事を辞めた理由を、母に「仕事が合わない。自分の希望するものでなかった。上司が自分にだけ厳しく叱ってくる」と話していました。

父は、ハローワークに行くことを勧めましたが、Yさんは積極的に仕事を探すことはしません。父が厳しく話すとYさんは不機嫌になって部屋に閉じこもり、その様子を見て、母はむしろ父をなだめ、何もいうことはありませんでした。

# Yさん（50代前半男性）－3／6

Yさんは、仕事を辞めた頃は家にひきこもっていましたが、6か月を過ぎた頃には、図書館に出かけたり、コンビニなどに買い物に出かけたりするようになりました。時々、日常生活のことで父から注意を受け、言い争いになることがあり、父とはあまり顔を合わせなくなりました。

母は、時々Yさんに小遣いを渡し、たまに、Yさんも母に頼まれた家のことを手伝うようになりました。

## Yさん（50代前半男性）－4／6

Yさんは、歴史書を読むのが好きで、多くの本を買い込み、母には歴史や政治の話をよくしていましたが、父との会話はあまりありません。

Yさんには、6歳年下の弟がいましたが、あまり一緒に遊ぶということはありませんでした。弟は、県外の大学に進学、卒業後、そのまま就職しました。実家には、盆や正月に帰る程度でYさんとの会話はありません。

## Yさん（50代前半男性） – 5 / 6

5年前に、Yさんの父が脳梗塞で亡くなり、母と2人暮らしになりました。Yさんは、その後もひきこもりの状態が続いており、母は、体力も落ちてきた様子です。Yさんは、母を買い物に連れて行ったり、畑を手伝ったりなどもしてくれるなど、日常生活では、母もYさんがいることで助かっていますが、収入は、母の老齢年金に頼っている状況です。弟は、たまに電話で母と話す程度です。

## Yさん（50代前半男性）－6／6

母の体力が落ちてきていますが、Yさんに、今の状況を変えようという気持ちはなさそうです。

県外に住む弟は、結婚して子どももいます。最近、母が弱ってきていると感じ、母がいなくなったらなど、将来の不安が現実味を帯びてきました。母の住む自治体の相談窓口に、「母が心配。兄を自立させて欲しい。兄を甘やかしている母も問題だ」と訴えています。

# 事例提示②（Ｙさん）について

- ・ 本人は、ひきこもり状態にあるが、  
買い物など、最低限のことはできている。
- ・ 母は、本人に頼っている。
- ・ 弟は何とかしないといけないと感じているが、  
本人・母ともに積極的に問題を感じていない。
- ・ 相談者は、弟。どう対応すればよいか。

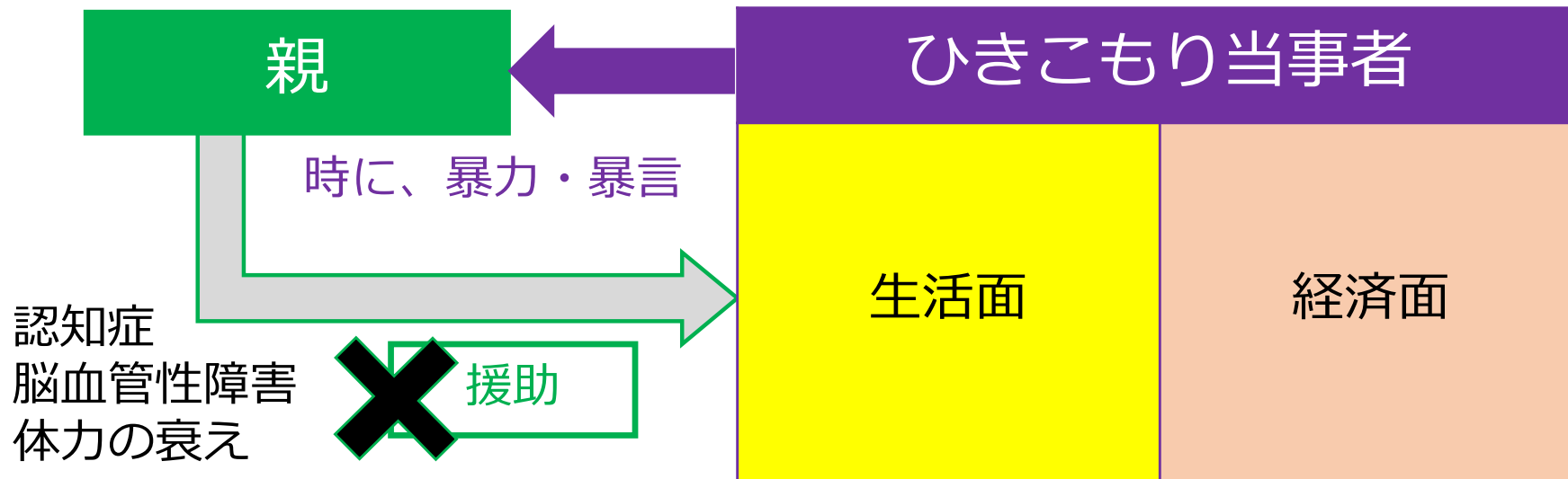
皆さまなら、どのように考え、  
どのように支援しますか。

正解はありません。

（中間アンケートにご記載ください。

応用編の参考にします。記載は任意です）

# 親が、援助困難となるとき



親の健康上の問題から、これまでのような援助ができなくなると・・・

## 親の援助が困難となった場合の、情報、相談経路

- 1 関係機関から  
市町村、地域包括支援センター、民生委員など
- 2 親族から  
別居している**ひきこもり当事者の「きょうだい」** など

# 親族（特にきょうだい）からの相談 1

親と（別居している）きょうだいでは、本人への思いが異なることも少なくありません。

| きょうだいの思い（例）                                                                                                                                                                                                                                                    | 親の思い（例）                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今すぐに、何とかして欲しい</li> <li>・働かないケシカラン存在</li> <li>・親が心配</li> </ul> <p>親に迷惑をかけて欲しくない<br/>そのために、自立して欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親が同居していなければ（当事者とは）関係は持つ気はない</li> <li>・「親が甘やかしすぎ」と不満も</li> </ul> <p>怒り</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・何とかなって欲しいが、それは難しいと思う。</li> <li>・自分（親）にも責任がある</li> <li>・親だから仕方ない</li> <li>・他の人には迷惑かけたくない</li> <li>・自分たちが我慢すれば・・・</li> <li>・可哀想</li> </ul> <p>心配</p> |

親は、本人ときょうだいの間で葛藤していることも。

# 親族（特にきょうだい）からの相談 2

きょうだい

親

ひきこもり当事者

支援者は、当事者・親に加え、きょうだいと、異なる3者に挟まれるが、きょうだいの方が、訴えの要求の内容が強く、スピード感を求めてくることもあり、時として、きょうだいのペースに巻き込まれがち。（内心、親は、そこまで今は求めていることもあるが、きょうだいには遠慮して言えない）。**本人ではなく、周囲がして欲しい支援をしてしまう可能性もある。**きょうだいの訴えている内容は、世間的には「正論」だけど、現実には、簡単に解決できない。

## 事例提示②

### Yさん－その後 1 / 3

担当者は、事前に母に了解を得て、弟と一緒にYさん宅を訪問しました。

担当者や弟が、Yさんに、今後のことや就労制度の話をしましたが、Yさんは、うなづく程度で返事はありません。途中からは黙り込んでしまい、母の方も、Yさんをかばう感じで話が進みません。結局、話はそこまでで終わりましたが、翌日、母から「もう自宅には来ないで欲しい」と連絡がありました。

## 事例提示②

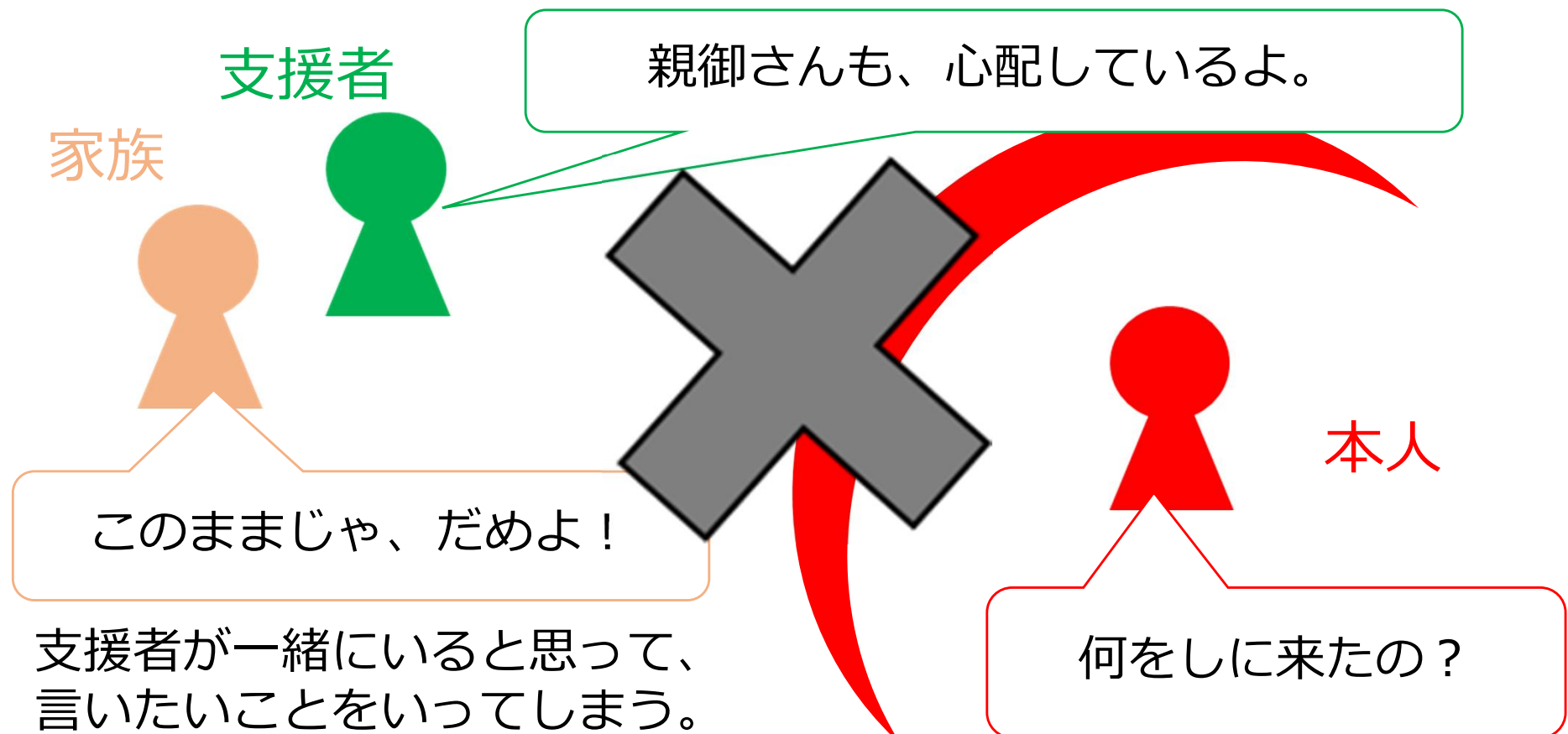
## Yさん－その後 2 / 3

母によれば、訪問のあと、Yさんはとても不機嫌でイライラしていたとのこと。今は落ち着いて生活をしているのに、弟が来ると家の中が乱れる。Yさんには、家の手伝いもして助かっている。「もう来ないで欲しい」と。

担当者は、決して強制的な言動はなかったものの、Yさんにとっては、将来の話が聞かれるだけでも強い不安、負担だったのかも、と。

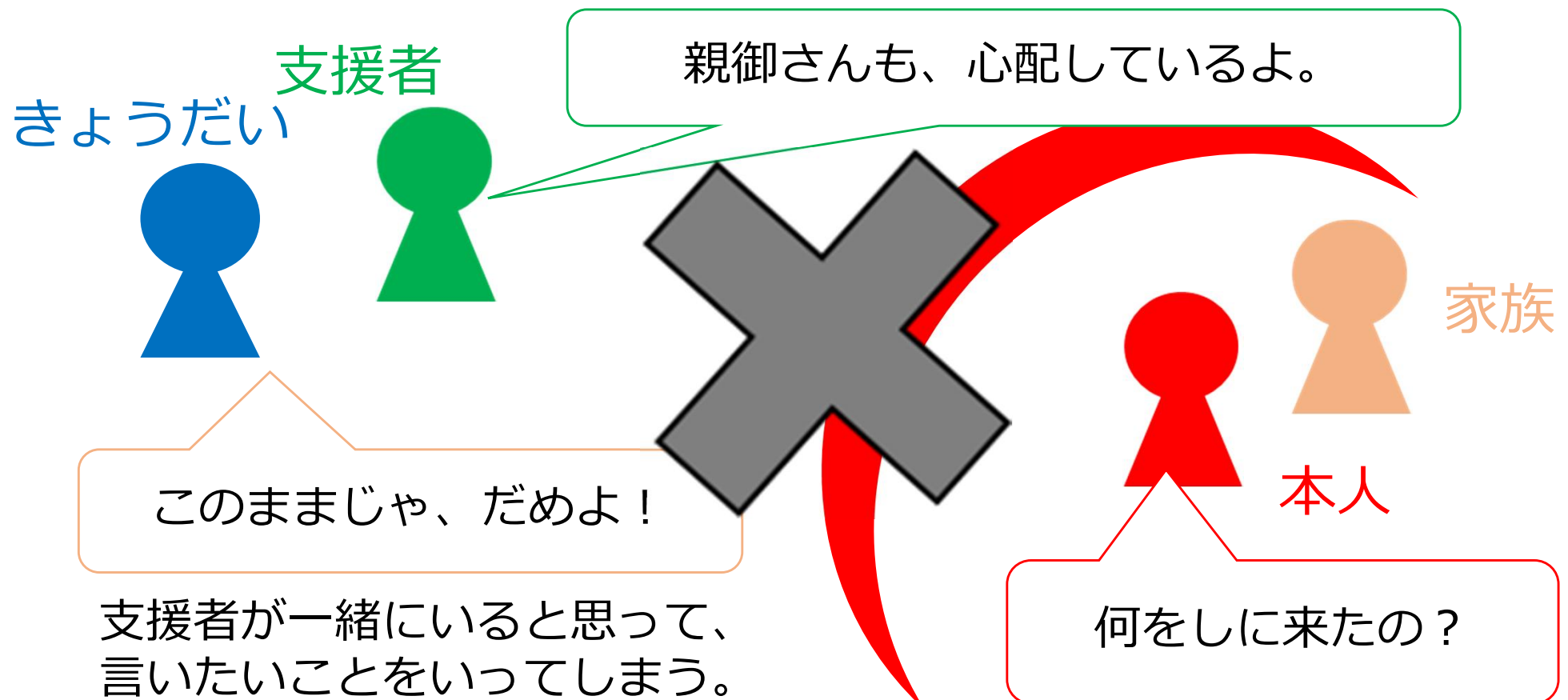
# 訪問の時の注意

訪問面接時は、支援者・家族 v s 本人、にならないように。  
訪問は、家族に頼まれてきたのではなく、（**家族の代弁者ではない**）、  
支援者が、本人のことが気になり、本人に会いたいから来た、と。



# 訪問の時の注意

今回は、  
支援者・きょうだい v s 本人・家族の構図になってしまっている。



## Yさん－その後 3 / 3

今後は、当面、訪問はとりやめる。

弟の不安は、「母が倒れたらどうなるのか、弟に負荷・責任がかかるのでは」ということ。

弟には、母がいなくなっても、行政等の支援が中心になるので、弟には大きな負担はないことなどを話す。

その後、弟は家族教室に定期的に参加。母とは担当者が継続相談を行っている。

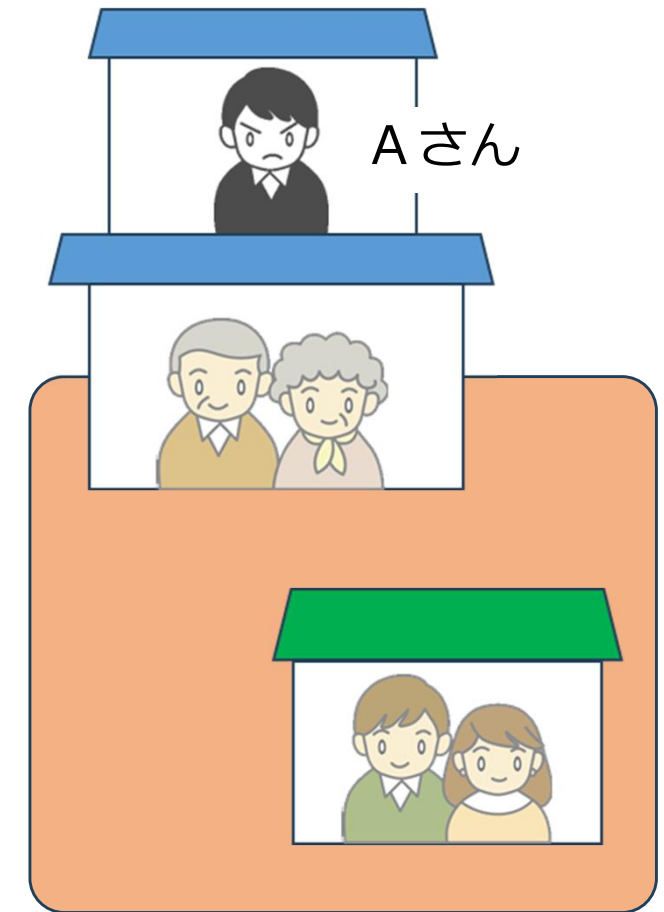
## 中高年ひきこもりへの地域支援から

事例 ③ Zさん  
50代男性

# Zさん（50代男性）－ 1 / 2

もともとはおとなしい性格だった。高校卒業後、トラック運転手、工場などを仕事を転々とする。いずれも、人間関係が上手くいかず、30歳頃から実家の2階にひきこもりの状態にある。父母（現在80代）と同居、同じ敷地内に兄弟夫婦が住んでいる。

ここ数年暴言や暴力（物にあたる、壊すなど）がひどく、ほとんど毎日、夕方頃から飲酒して、暴れたり、大声を出したりする。攻撃は特に父に向かう。父は以前から、仕事をするように何度も言ってきた経過がある。



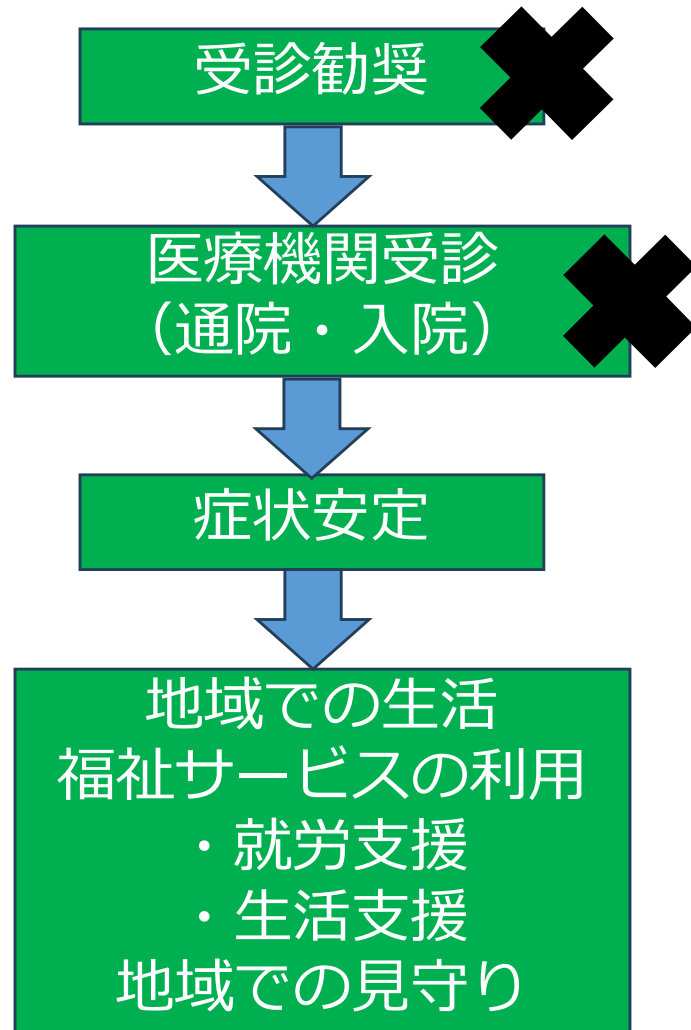
## Zさん（50代男性）－ 2 / 2

毎朝6時に起き、7時10分にコンビニに行き、弁当と酒を買う。11時に昼食をとり、午後は入浴し洗濯する。午後4時に夕食。飲酒も始まり、午後7時くらいからイライラして暴れ、午前0時ころに寝ている。朝早く父の軽トラックが、本人の車の前に停車されていると、7時10分にコンビニに出られないので激怒する。

3年前から、脱いだ服を並べて指差して「よし」と声を出して何度も確認したり、電気、水を流したかどうかの確認が多くなった。風呂で、「いつまでもこんな所におれるか！」と大声で言うことがあった。本人は、落ち着いているときにも独語がある。

家族の靴に泥を入れたり、車のミラーを壊したりすることが増え、地域包括支援センターを通じて、父、兄から役場に相談がある。

# 相談の経過

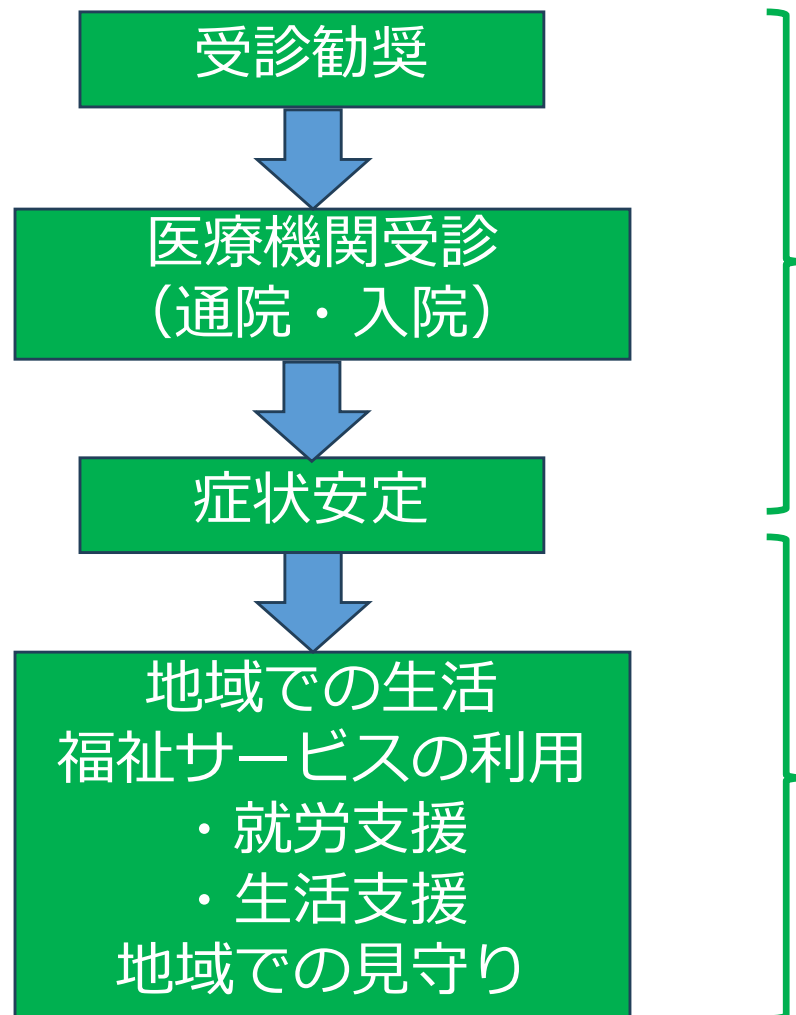


役場の保健師が訪問。保健師の前では落ち着いて話をする。しかし、夜は大暴れするという生活が繰り返され、保健師の訪問も中止した。

お盆の日、特にひどく暴れ、父を部屋から出られないようにして、壁を蹴ったり、「殺すぞ」「死ね」と言う。警察に相談。翌日の夜も暴れるので警察に通報となった。父母、兄夫婦はそれぞれ親戚宅に避難。警察の協力を得て病院受診となるも、精神症状は明確ではなく、薬を処方され帰宅となる。その後、病院受診は拒否、服薬もしていない。

地域包括支援センターから勧められ、兄夫婦が相談来所となる。

# 相談の経過

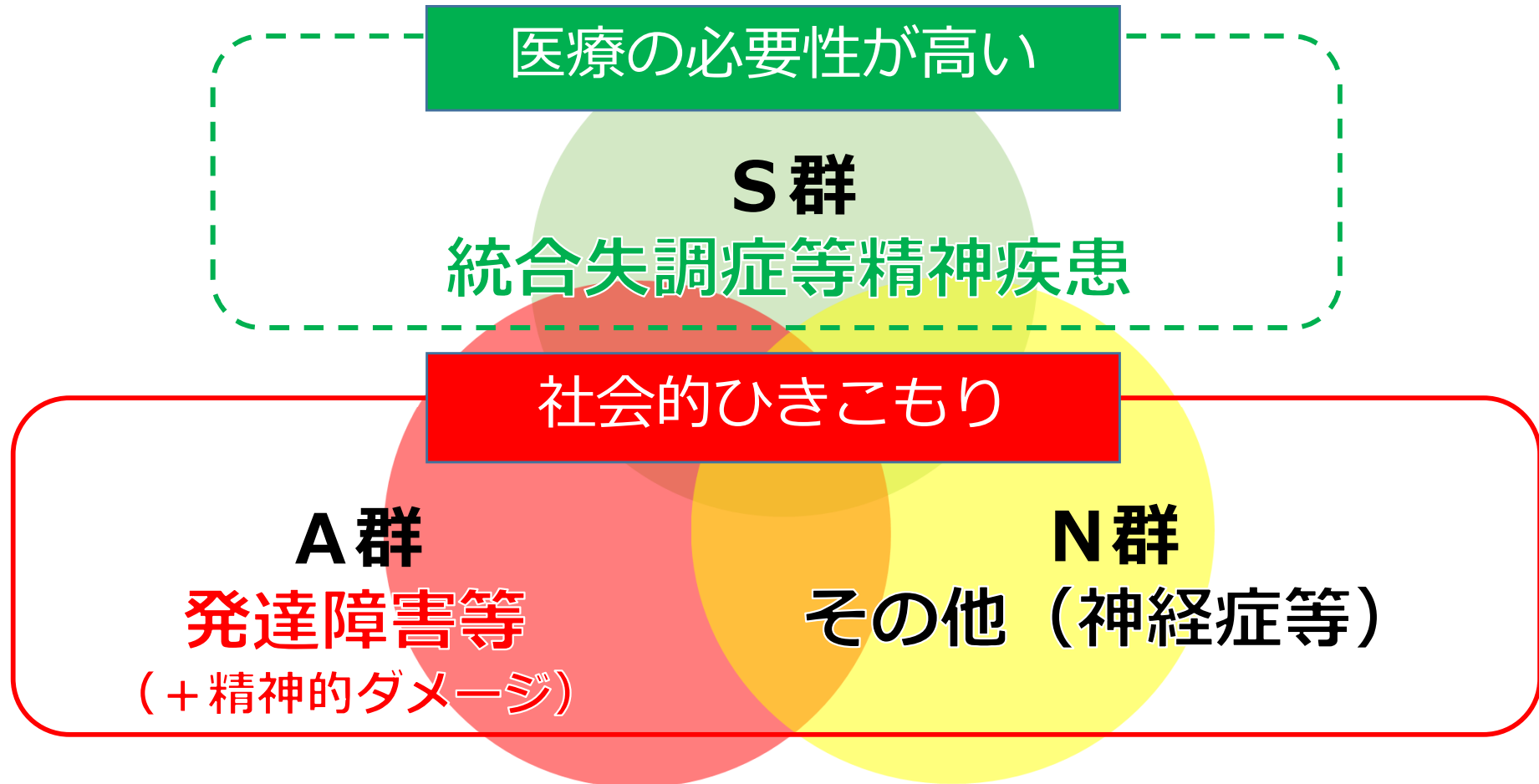


精神科医療機関を受診し、  
投薬をはじめとした治療に  
より、症状の改善が見込め  
るという見立てがある。

実は、統合失調症モデル

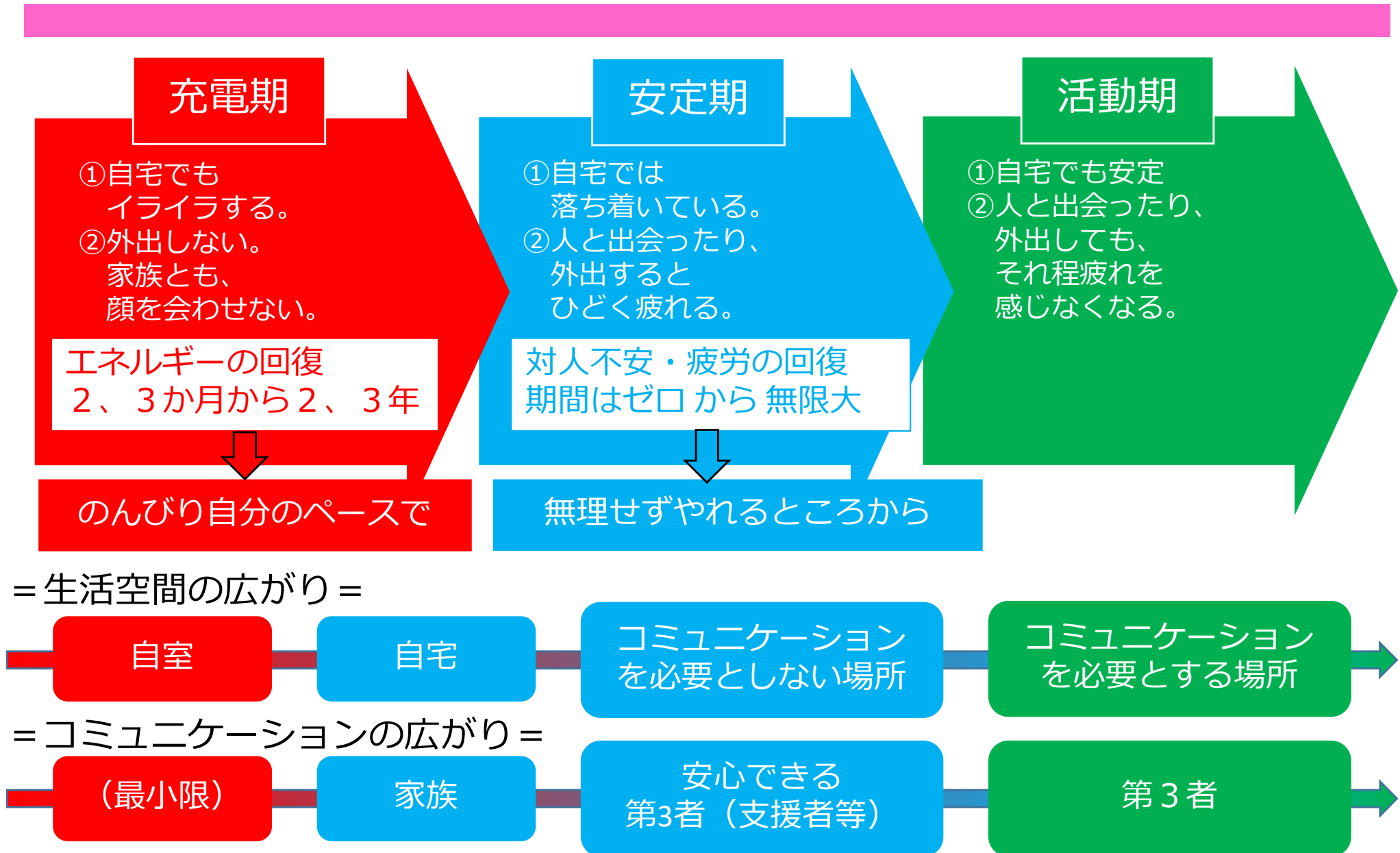
障害者総合支援法における  
精神障害者福祉サービスが  
効果的という前提がある。

# ひきこもり：3つの分類

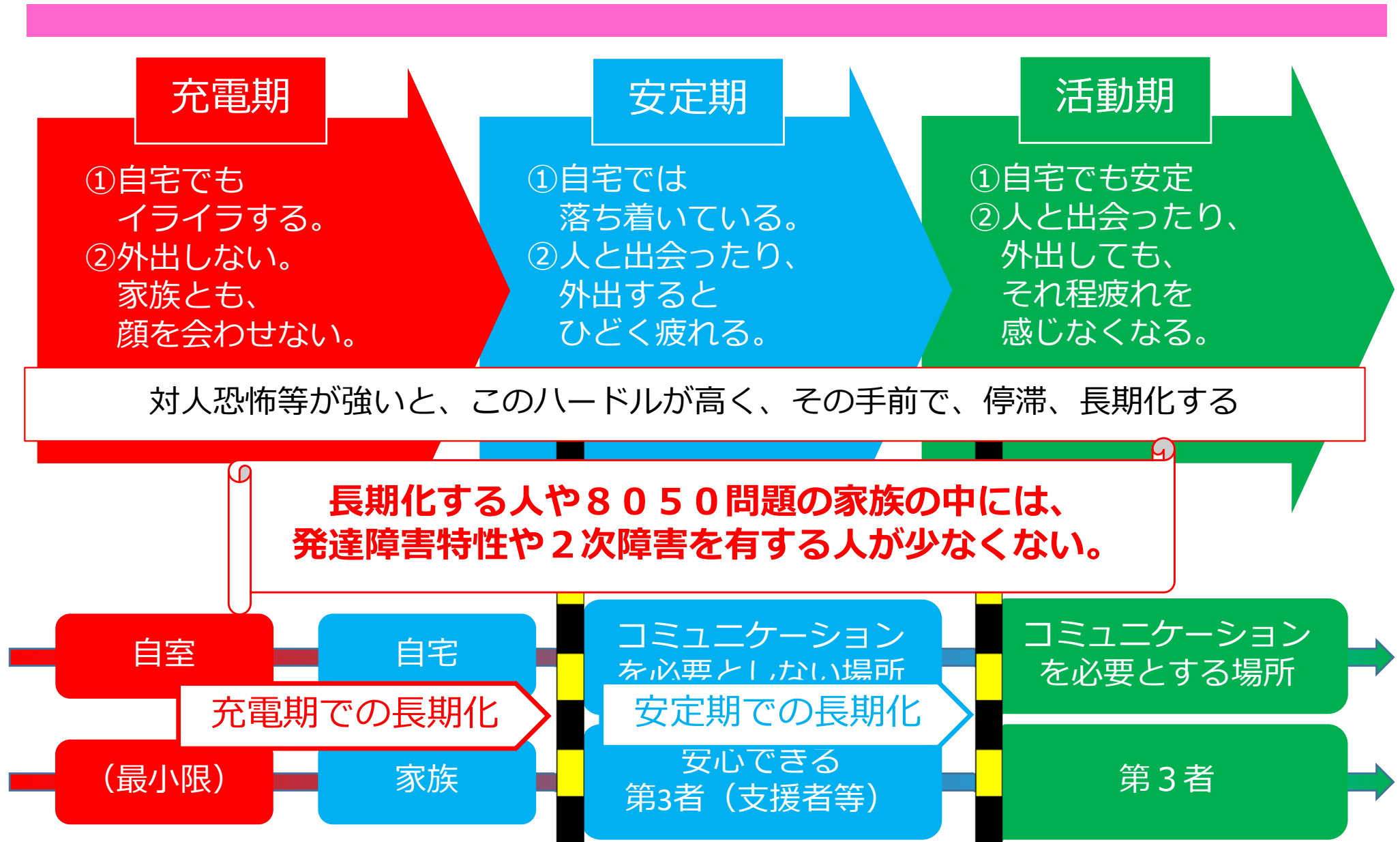


見立ては重要となりますが、  
必ずしも、明確には鑑別できません。  
ここからは、社会的ひきこもりの話が中心になります。

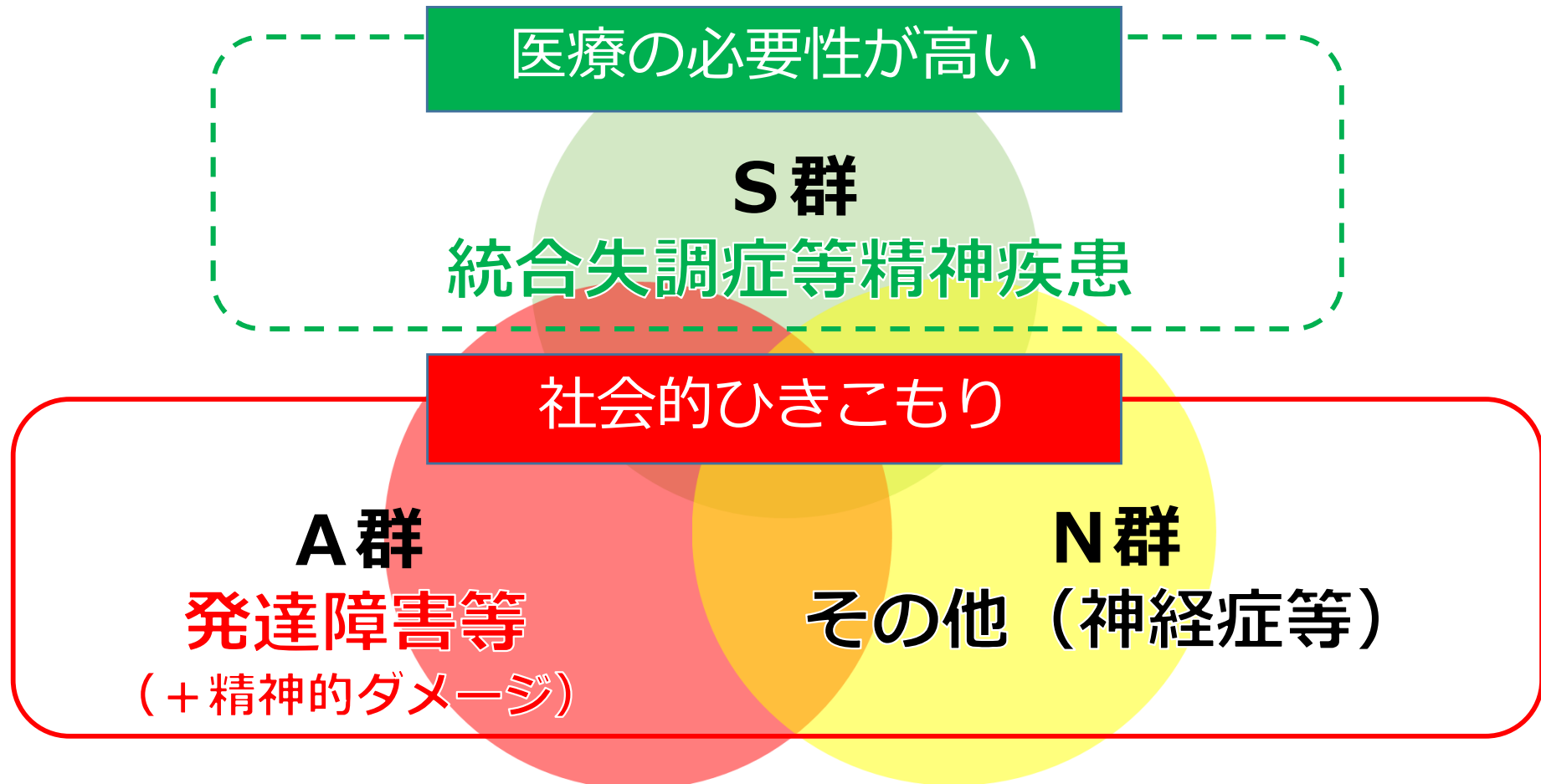
# 社会的ひきこもりの回復過程



# 社会的ひきこもりの長期化



# ひきこもり：3つの分類



見立ては重要となりますが、  
必ずしも、明確には鑑別できません。  
ここからは、社会的ひきこもりの話が中心になります。

# 8050家庭における長期化したひきこもり

10年以上ひきこもり状態にある人のイメージ（あくまでも個人的意見）

疾病や障害を有さない ひきこもり状態の人

医療の必要性が高い  
統合失調症等  
(未治療)

医療の受診も考慮  
強迫性障害  
妄想性障害  
抑うつ状態 など

福祉制度の利用を検討  
知的障害

発達障害  
(主に、ASD=自閉スペクトラム症)  
2次障害を有することも

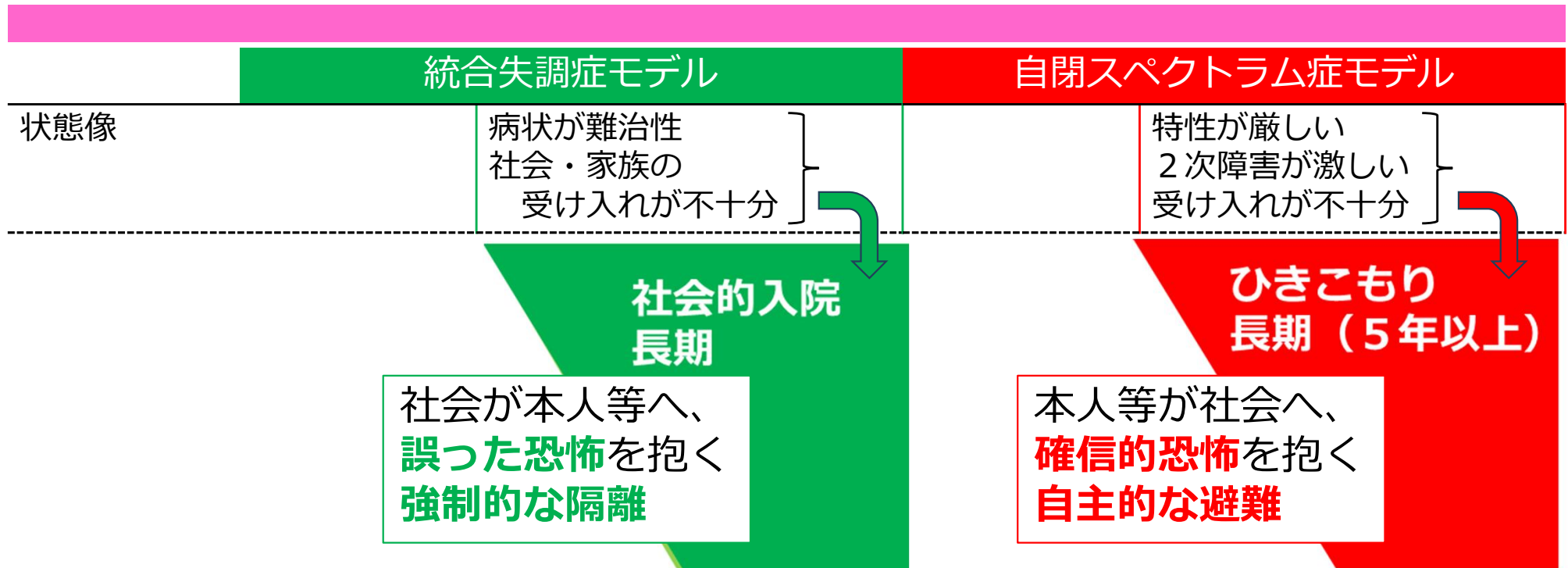


疾病や障害（特に、ASD）の知識なく、ひきこもりを見ることは難しい。

# 統合失調症モデルとA S Dモデル 1

|        | 統合失調症モデル                        | 自閉スペクトラム症モデル                                                                    |
|--------|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 相談対象者  | <b>統合失調症</b> ・双極性障害など           | <b>自閉スペクトラム症</b> ・ <b>ひきこもり</b> など                                              |
| 相談対応   | 受診勧奨（医療導入）                      | 事例・状況によって異なる。<br>①受診勧奨<br>②補助的・対症的に受診<br>③福祉サービスの提供など<br>環境調整も含め幅広い対応が求められる。    |
| 支援者の経験 | 支援者の多くが回復過程を経験<br>（家族指導・支援ができる） | <b>回復過程を十分に把握していない</b><br>（家族支援が難しい）                                            |
| 自治体差   | 地域による対応の差は少ない                   | 地域における対応の差が大きい<br>より身近な市区町村の役割も大きい                                              |
| 治療効果   | 統合失調症・気分障害においては、向精神薬が効果的        | 向精神薬の効果は限定的（不安・不眠、抑うつ気分などに対しては、効果を示すこともある）                                      |
| 相談のあり方 | 受診勧奨を中心とし医療機関に依存した精神保健相談        | 医療機関との連携を重要とするも、医療機関だけに依存するのではなく、地域の関係機関・支援機関と幅広く連携した精神保健相談                     |
| 福祉サービス | 作業の量、質への配慮が必要とされ、福祉的就労による支援も効果的 | 作業の量、質への配慮に加え、個人の持つ <b>対人不安・恐怖への配慮</b> も必要となる。<br><u>（現在の福祉サービスに適応しないこともある）</u> |

# 統合失調症モデルとA S Dモデル 2



\* 地域の中には、これまでの「統合失調症モデル」に加え、新たに「ASD（自閉スペクトラム症）モデル」が増加・併存しているが、依然として相談支援の対応は「統合失調症モデル」が中心。そのため、福祉サービスに適應できない事例は残されている。

\* 「ASDモデル」は以前から存在していたが、決して地域での理解、受け入れは十分ではなく、多くの不適応等が生じていたと考えられる。統合失調症モデルでは、一部が長期の社会的入院となって課題となっていたが、「ASDモデル」は、積極的な医療を必要としないため「ひきこもり」という形で長期化し、ここ数年、親の高齢化に伴い問題が表面化してきた。

\* 一部のASDの人は、強い疲労感を抱きながらも、表面的には統合失調症モデルに適應している。このタイプのASD（マイルドASD）の体験から、支援者が、自分たちはASDの支援が出来ていると錯覚していることも。

# Zさん（50代男性） —その後①

父は、叔母宅に避難をしていたが、長期になると居づらくなりビジネスホテルに1か月滞在後、サービス付き高齢者住宅に入所となる。

母は、身体疾患で入院していたが、その後、高齢者施設に入所。

兄夫婦と面接。本人の特性の話や、本人と父との関係などから、もともと本人は、集団生活が難しく緊張感があること、父との関係が悪く父との同居生活に強い不快感、限界を感じていたことなどが想像される。

本人の状態は、統合失調症のような、発達障害（2次障害）のような、不明瞭なところはあるが、とりあえず、特性に配慮したかかわり方を考える。

## Zさん（50代男性） ―その後②

面接の翌日、兄が自宅に帰ったところ、物も散乱し、家の中は無茶苦茶な状態だった。

本人が兄に暴言を吐くこともあるが、兄が「ここ数か月の状況を改善しよう」と本人に声掛けをしたところ、本人から「ありがとう」と言う言葉があった。本人は、「やっと親父が警察に捕まったな」と言った。

その後、兄のみが一緒に生活を始める。父が家になくなったことで安定したのか、以降の1か月は2回飲酒して大声を出すこともあったものの、それ以外は安定している。兄の妻も帰りたい意向だが、本人は

「（妻が）帰っても大丈夫、何も思っていない」と言う。本人の独語と「指差し」確認行為は続いている。  
※後日、自閉スペクトラム症の診断がなされている。

# 「ひきこもり相談支援実践研修会【応用編】A」 終了時アンケートご協力をお願い

- ひきこもり相談支援実践研修会にご参加いただき、ありがとうございました。
- ご感想、ご意見などがございましたら、アンケートへのご回答をお願いいたします。

アンケート回答URL : <https://business.form-mailer.jp/fms/acd64938318811>

QRコードからもご回答いただけます。  
(スマホをご利用ください)



ご回答は11月28日（金）までに  
お願いいたします。